



よろい

甲を着た古墳人だより



公益財団法人

群馬県埋蔵文化財調査事業団

“網代垣保存プロジェクト”

～剥ぎ取りから展示まで～

金井下新田遺跡では、大型竪穴建物や掘立柱建物などを囲んだ網代垣が発見されました。網代垣の規模は、東西辺48.6m、南北辺54m、高さ3m、厚さ0.2mほどと大きなもので、平行四辺形の区画を囲んでいました。網代垣は、網代編でヨシズ状のパネルをサンドイッチした三層構造で、1.8m間隔に立てた柱で支えていたことがわかりました。火砕流によって倒され埋没し、炭化してしまったために、設置されていた当時の状況がよくわかります。

網代垣の一部を出土した状況で保存し、そのまま多くの方に見てもらえるように剥ぎ取りや切り取りといった作業をおこない、展示できるようにしました。今回は、この“網代垣保存プロジェクト”を紹介しましょう。



プロジェクト①

■ 網代垣の剥ぎ取り作業

発掘現場で剥ぎ取る網代垣に接着剤となるウレタン樹脂を一定の厚さに塗り、その上に支持体となるガーゼを貼り付けます。さらにその上からまたウレタン樹脂を塗り乾くのを待ちます。

その後、ガーゼごと持ちあげると、網代垣が剥ぎ取られます。



ウレタン樹脂をつけた該場所にガーゼを貼り付けていきます。

■ 剥ぎ取りのパネル化

剥ぎ取った資料は薄くゴムのような状態なので、展示できるように木枠に貼り付けパネルにしました。網代垣は倒れている状態で出土しましたが、使用時を想定して立てて展示をしています。



ガーゼの裏側に古墳時代の当時の地面の様子が転写されています。

プロジェクト②

■ 網代垣の切り取り

金井下新田遺跡 6 区で出土した状態が良いところを切り取りました。遺構の切り取りにはビニールで覆ってから、断熱などに使用される発泡ウレタンを吹き付けクッション材の役目をさせます。金井東裏遺跡で発見された甲を着た古墳人にも同じ手法を使いました。



古墳時代の地面をそのまま切り取って発泡ウレタンで囲ってしまいます。

■ 網代垣の強化

網代垣はアシやタケの茎で作られた、ヨシズに似た構造材が炭化した状態で発見されました。炭化した植物は非常にもろく、反ってしまうことがあります。そのため、炭化した植物の表面にアクリル樹脂を散布、表面に塗るなどおこない強化しました。



切り取った地面を室内で丁寧に改めて掘り出し、薬剤を塗布します。